

確認問題 1

58歳の男性。X年2月4日午前5時頃、道路脇の草むらに倒れているところを発見され、心肺停止状態で病院に搬送された。発見時の体温が31℃、検査で明らかな外傷はなく、復温により、一旦心拍は再開したが、意識の回復なく同日午前9時10分に死亡した。血液から0.5mg/mlのエタノールが検出され、軽度の酩酊状態と判断された。警察の捜査では、前日夜に発見場所近くの居酒屋で午前2時頃まで飲酒していたというが、その後の足取りは不明。犯罪性はないと判断された。

この場合に発行する書類の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

確認問題 1

58歳の男性。X年2月4日午前5時頃、道路脇の草むらに倒れているところを発見され、心肺停止状態で病院に搬送された。発見時の体温が31℃、検査で明らかな外傷はなく、復温により、一旦心拍は再開したが、意識の回復なく同日午前9時10分に死亡した。血液から0.5mg/mlのエタノールが検出され、軽度の酩酊状態と判断された。警察の捜査では、前日夜に発見場所近くの居酒屋で午前2時頃まで飲酒していたというが、その後の足取りは不明。犯罪性はないと判断された。

この場合に発行する書類の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【記載例】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに病患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称	(ア) 直接死因 低体温症		不詳	疾病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)
		(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
		(エ) (ウ) の原因				
		直接には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	酩酊状態		不詳	
	手術	部位及び主要所見	①無 2有	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	主要所見	①無 2有			
(15)	死因の種類	1 病死及び自然死 2 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因死 12 不詳の死				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 昭和 X 年 2 月 4 日 午後 頃 時 分 傷害が発生したところの種類 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他(草むら) 傷害が発生したところ 〇〇 都道府県 〇〇 区 〇〇 町 〇〇 丁目 手段及び状況 道路脇の草むらに倒れているのを発見された。				

(17)	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数	◆女性 ◆1欄に記入する ◆1欄に記入する
	グラム	1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	満 週	
(18)	生後1年未満で病死した場合の追加事項 1 無 2 有	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和	前回までの妊娠の結果 出生児 人胎 死産児 (妊娠満22週以後に限る)	
	その他特に付言すべきことから 心肺停止状態で病院に搬送され、蘇生処置により一旦心拍は再開したが、死亡した。			

【解説】

冬場に酩酊状態で寝込んでしまい低体温に至ったと考えられる事例です。

通常、解剖検査が行われることが多いと思います。死体検案を行う場合は、検案から得られる情報のみならず、警察の捜査情報なども併せて総合的に判断します。

「死因の種類」も不慮の外因死ですと「8.その他」ですが、故意の可能性がある場合なども否定できない場合は「11.その他及び不詳の外因死」の選択もあります。

確認問題 2

65歳の男性。X年1月10日午後9時30分頃、道路を横断中に普通乗用車にはねられた。頭部を打撲し、病院に搬送された。検査で急性硬膜下血腫および脳挫傷と診断され、同日、開頭血腫除去術を受けた。術後、全身状態は安定したが、軽度の意識障害があり、ほぼ寝たきりの状態が継続した。3月上旬から発熱と呼吸状態の悪化がみられ、肺炎と診断され加療を受けたが、3月21日午後3時40分に死亡した。

この場合に発行する書類の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

確認問題 2

65歳の男性。X年1月10日午前9時30分頃、道路を横断中に普通乗用車にはねられた。頭部を打撲し、病院に搬送された。検査で急性硬膜下血腫および脳挫傷と診断され、同日、開頭血腫除去術を受けた。術後、全身状態は安定したが、軽度の意識障害があり、ほぼ寝たきりの状態が継続した。3月上旬から発熱と呼吸状態の悪化がみられ、肺炎と診断され加療を受けたが、3月21日午後3時40分に死亡した。

この場合に発行する書類の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【記載例】

(14)	死亡の原因 ◆1欄目欄ともに病歴の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。	I	(ア) 直接死因	誤嚥性肺炎		約3週間
		(イ) (ア)の原因	急性硬膜下血腫及び脳挫傷	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約70日	
		(ウ) (イ)の原因	頭部打撲	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	約70日	
		(エ) (ウ)の原因	表欄には死因に該当しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
	II	手術		部位及び主要所見	手術年月日	昭和 X年1月10日
	解剖	1無 2有		開頭血腫除去術		
		1無 2有		主要所見		
(15)	死因の種類	1病死及び自然死 2 不慮の外因死 { ②交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 9 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 昭和 X年 1月 10日 午後 9時30分頃 傷害が発生したところの種類の 1住居 2工場及び建築現場 ③道路 4その他() 傷害が発生したところ 〇〇 都道 〇〇 区 〇〇 町村 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください				
		手段及び状況 道路を横断中に、普通乗用車にはねられたという。				

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数
		グラム	1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	満 週
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は産状	母の生年月日		前回までの妊娠の結果 出生児 人胎 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)
	1無 2有	3不詳	平成 年 月 日 昭和	
(18)	その他特に付言すべきことがら 病院に搬送され、治療を受けていたが、死亡した。			

【解説】

交通事故で頭部を負傷し、治療を受けたものの死亡に至った事例です。

直接の死因は肺炎ですが、一連の事象の起因となった事項（この場合には、頭部打撲による急性硬膜下血腫および脳挫傷＝原因死）が死因の種類を判断する上で重要です。「2.交通事故」

手術の内容、外因死の追加事項など、可能な範囲で記載します。